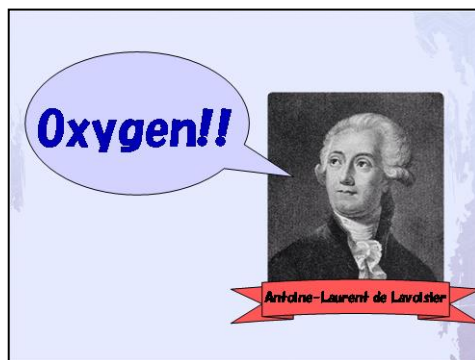


Keep On Researching

2014 年 12 月 12 日
発行
明石北高等学校
研究推進部

今年の冬至は 12 月 22 日(日)。もう少しで夏への折り返しです。あとしばらく、長い夜を読書に勉強に、いろいろ楽しみましょう。今回は学校設定科目の紹介とちょこっと情報です。

*2 年自然科学科の授業に「科学英語情報」があります。
2 学期は自然科学探究の内容（職員室前に掲示してあったポスターの内容の一部）を、英語で 10 分程度にまとめてパワーポイントで発表することを目標としました。ALT の先生に何度もダメ出しをもらっては、やり直しを繰り返し、原稿・PPT を作成してクラス内で発表しました。右図はそのスライドの一部です。みんなの前で発表する機会もあればいいですね。



*12 月初め、近畿・北陸地方の SSH 校の先生方の研修がありました。そこでの京都大学の工学部情報学部長の中村佳正教授のお話は、高校生にぜひ知っておいてほしいことです。

1 大学で学ぶということはどういうことか？

高校までの学び 課題は与えられ、常に答えがある。（授業→答える）

大学での学び 課題を見つけることから始まる。答えはまだ誰も知らない。（なぜ○○？）

What? Why? How?

2 大学で伸びる人材とは？

- ・「基礎がしっかり」とは基礎知識があることか？（表面的な知識がじゃまになることもある。）
- ・その分野の「考え方」（知識相互の結びつけ方、使い方）が深いところで身につけている。

- ・「考え方」がわかっていると、別の課題に転用が効く。
- ・学際的なチームで取り組み、課題を違った角度から見ることで新しい局面が開ける。
- ・プロトタイプや **counter example** をつくって議論して、より一般的な解決策を見つける。
- ・失敗を受け入れ、失敗に学ぶ。新しいことにチャレンジすれば普通は最初に失敗する。

◎与えられた課題を解くうちは不用に見えても、誰も解けないと思った課題、また、自らが見つけた課題の解決には、全く別の分野の「考え方」や「方法」が有効なことがある。



高校時代に受験科目だけではない学習、体験をしてきてほしいとまとめられました。何のために進学するのか？人それぞれですが、自分の考えはしっかりもっておくべきですね。